



ごうちゃんねる (GO-CHANNEL)

2023/10/14

あっさり黙示録 #72

透き通った巨大都市—新しいエルサレム

黙示録 2 1 章

東住吉キリスト集会 高原 剛一郎 氏



お元気ですか。高原剛一郎です。今日は**あっさり黙示録**の第72回目！このシリーズをやっていて、実はついこの間、嬉しいことがありました。コメント欄にカノウ君という子から質問があったんです。「大変勉強になるお話し、ありがとうございます」そして質問が書いてあるんですが、小学1年生ですよ。今までの最年少は小学5年生でした。小学1年生。一気に5年、ガン！記録やりましたねえ。幼い時から聖書に親しむことは、本当に素晴らしいと思います。聖書の中にはすべての解答があるので、カノウ君、これからもぜひ聖書を学んでいってください。

さて、今日は**黙示録 2 1 章 9-11 節**を一緒に見ていきます。ここには、新天新地の首都である**新しいエルサレム**はどんなところかが書いてあるんですね。日本の首都は東京。アメリカの首都はワシントン。イギリスの首都はロンドン。新天新地にも首都があります。**新しいエルサレム**です。

黙示録 2 1 章

9 また、最後の七つの災害で満ちた、あの七つの鉢を持っていた七人の御使いの一人がやって来て、私に語りかけた。「ここに来なさい。あなたに子羊の妻である花嫁を見せましょう。」

子羊はイエス・キリスト。子羊の妻である花嫁は教会のことです。教会とは建物ではありません。イエス・キリストを信じたクリスチャンの共同体、その集団のことを教会と言います。ギリシア語でエクレシア。「完成された神の教会をあなたに見せましょう」という意味です。

10 そして、御使いは御霊によって私を大きな高い山に連れて行き、聖なる都エルサレムが神のみもとから、天から降って来るのを見せた。

「子羊の妻である花嫁を見せましょう」と予告されたのに、実際見せられたのは花嫁ではなく、聖なる都エルサレムだったんですね。なぜなのでしょう。聖なる都エルサレムは首都、物理的な建物、都市です。なぜ、都市と花嫁がイコールで結ばれるような説明をしているのでしょうか。この都市の中に花嫁（教会）が住んでいるからです。しかし、新しいエルサレムに住むのはクリスチャンだけではないので、そのポイントを押さえておきます。

ヘブル 1 2 章

2 2 しかし、あなたがたが近づいているのは、シオンの山、生ける神の都である天

上のエルサレム、無数の御使いたちの喜びの集い、

2 3 天に登録されている長子たちの教会、すべての人のさばき主である神、完全な者とされた義人たちの霊、

2 4 さらに、新しい契約の仲介者イエス、それに、アベルの血よりもすぐれたことを語る、注ぎかけられたイエスの血です。

シオンは広い意味では約束の地ですが、シオンの山はエルサレムなんです。ただし、地上のエルサレムではなく、生ける神の都である天上のエルサレムなんです。シオンの山と天上のエルサレムは同じ意味です。

そこに住んでいる人たちのリストが5つ出て来ます。

①無数の御使いたち；御使いという霊的な存在。新しいエルサレムには、セラフィム、ケルビム、ミカエル、ガブリエルなど無数の御使いたちが、喜びながら集っているんですね。

②天に登録されている長子たちの教会；イエス・キリストを信じて救われているすべての人たち、初代教会から携拳までの期間に救われたすべてのクリスチャンたち。クリスチャンの共同体のこと。

すべての人のさばき主である神；三位一体の神と考えてもいいのですが、ここでは特に、父なる神のように思います。

④完全な者とされた義人たちの霊；旧約時代の信仰者、聖徒たち。彼らも新しいエルサレムにいるんです。

⑤新しい契約の仲介者イエス；新しいエルサレムの中心には、神と子羊がおられるんですね。神はすべての人のさばき主である神。子羊は新しい契約の仲介者イエス。

それに、アベルの血よりもすぐれたことを語る、注ぎかけられたイエスの血です。新しいエルサレムに入る資格はイエスの血、イエスのいのちによって贖われた人であること。これが唯一の資格なんですね。

ここには出て来ませんが、入る人たちがまだいます。艱難時代に救われた人たちで、それを入れると全部で6つ、6種類の人たちが新しいエルサレムにいるんですね。人数でいうと多分御使いか、神の子羊の妻／花嫁である教会が一番多いのではないかと思います。

さて、新しいエルサレムは外見的に非常に特徴があるんです。それを、今日からしばらくシリーズで見っていきます。

黙示録 2 1 章

1 1 都には神の栄光があった。その輝きは最高の宝石に似ていて、透き通った碧玉のようであった。

神の栄光とは、肉眼でも分かる神様の偉大さを表す光、シェキナーのことです。旧約時代、神様の栄光は幕屋にありました。新約時代はキリストの中に宿り、新天新地では新しいエルサレムにあります。そして、新しいエルサレムでの神の栄光は、その現れ方が非常に特殊なんです。

その輝きは最高の宝石に似ていて、透き通った碧玉のようであった。宝石そのものではなく宝石に似ている。そして、透き通った碧玉のようであった。ヨハネは新しいエルサレムの材質を見た時、地上にある物を使って、何とか伝えようと苦心しているんですよ。この表現を見ると、新しいエルサレムは透明度が非常に高い、透き通った都であると言えるんですね。

旧約時代の幕屋は神様の栄光が満ちる世界ではありましたが、4種類の幕で被われていて、外から中が見えないようになっていました。一番内側に白い亜麻布、その上に山羊の毛で作った布、その上に赤くなめした牛の皮、一番上にジュゴンの皮で作った布が掛けられていました。

新改訳聖書ではジュゴンと訳していますが、よく分からないんですね。ヘブライ語ではラクハシヒーム。発音ムチャクチャ悪いです。そのまま機械読みしてるので、ユダヤ人が聞いたら「はあ？」みたいにわけ分からないと思いますが、ある聖書ではイルカ。ここではジュゴン。とにかく、当時の荒野にいたユダヤ人にも手に入る素材ですが、どうも海に生きている獣の皮の感じで、見とれるような姿ではないと言いたいようですね。

いずれにしても、幕屋の中には神の栄光や宝物があるのですが、それが見えないうように遮られているんです。ところが、新天新地は透き通った碧玉のようなのでよく見える。神の栄光を遮るものが何一つない。今の生身の体を持っている私たちには、神の栄光がモロに見えることは苦痛なんです。

小学校の時に太陽の観察をやったんですが、ほとんど太陽の光を遮断するような物を掛けて見ないと目が壊れるので、プラスチックの板のような眼鏡を掛けて太陽を見るんです。生身の体で眩しすぎるものを見ると、観察者が滅びてしまうんですね。あるいは温泉。体に傷がない人は温泉に入ると気持ちいいんですが、切り傷、刺し傷、火傷の跡など傷がある状態で温泉に入ると苦痛でしょ。

罪を持ったままの人間、不完全な朽ちていく肉体のままの人間が、神の栄光をモロに見るのは苦痛以外の何ものでもないんですね。しかし、新天新地の住民たちは全員栄光の姿に変えられているので、神の栄光を直に見ても直接触れても全く害を受けず、ありのままの神様の姿を見上げることができる。うっとり堪能することができるんですね。

先日『聖書と福音1200回記念ゴスペルコンサート』にコラボレーションで出演させていただいたんですが、音楽ってやっぱり生が一番。なんぼCDやMD、最高の解像度のYouTubeが良いといっても、デバイス越しに見

るのと、その人の息遣いが聞こえるようなところで生に接するのとでは迫力が違いますよ。その意味で、ライブに勝るものはないと思いました。

やがて新天新地では、神の栄光をライブで見ることになる。神の息遣い、神の素晴らしさ、優しさ、恵み深さを共有し、リアルに体験する世界が新天新地、新しいエルサレムなんですね。そんなところに行く望みがあることは、本当に素晴らしいことです。

新しいエルサレムについての解説をしばらく続けますので、よろしければお付き合いください。チャンネル登録もお願いします。ではまた、ごうちゃんねるでお会いしましょう。お元気でいらしてください。さよなら！



☆引用；日本聖書刊行会『聖書 新改訳 2017』いのちのことば社,2017